

令和5年12月22日（金）

県教育委員会教育長と市町村教育委員会教育長による

「教職員の働き方改革『共同メッセージ』に関する会合（於：島根県民会館大会議室）

〔教育長の決意表明（概要）〕

【松江市】

教職員が、小中9年間の学びの体系を捉え、業務に専念できる環境を作る。留守番電話の全校導入を進める。

【浜田市】

来年度から、浜田地域の3市3町で校務支援システムを共同導入する。地域とともに子どもたちを育てていく、というメッセージを発信したい。

【出雲市】

留守番電話の全校導入を現在検討中。協力いただいている地域住民や保護者の皆様への感謝の気持ちを持ちながら、働き方改革を進める。

【益田市】

任命権者（県教育委員会）とサービス監督権者（市町村教育委員会）が一致団結して改革することが重要。できることからすぐ取り組んでいく。

【大田市】

県の働き方改革チャレンジ校の実践を市全校で共有。校務支援システムの導入。働き方改革や部活動地域移行をテーマに校長会・学校運営協議会で協議。

【安来市】

市内の学校は県の働き方改革モデル指定校となっており、改革を推進中。校務支援システムも導入。教職員が自信と誇りを持って働ける環境を作る。

【江津市】

教職員には、子どもたちの将来に関わる当事者意識の醸成が必要。今回のメッセージについて、地域とキャンペーンを組んで広げていく。

【雲南市】

教職員が負担となる調査について、内容の見直しやデジタル化が必要。今後も、市長部局によって学校の除雪を実施する等、市を挙げて学校を支える。

【奥出雲町】

本町においては部活動の地域移行を進めているところである。今後も町を挙げて働き方改革を推進していく。

【飯南町】

「笑顔あふれるまち」という町のスローガンの実現のため、コミュニティ・スクールの導入など、地域ぐるみで働き方改革を進めていく。

【川本町】

町単独でサポート人材を配置しており、事務担当者会で実現した業務改善もある。今後も教職員が笑顔で働けるように取組を進めていく。

【美郷町】

町内の校長と共に業務改善を進めている。町の強みである ICT や今年度から導入したコミュニティ・スクールも働き方改革に生かしていく。

【邑南町】

今朝、子どもが先生に笑顔であいさつする姿を見たが、こうした姿が教育の原点。本町でも、通知表を年3回から2回にするなど改革を進めていく。

【津和野町】

小学校で時程を見直したところ、40分の時間が生まれ、教職員が子どもの話をする時間が増えた。教職員が夢や目標をもって働けるように取り組む。

【吉賀町】

町単独でサポート人材の配置を行っている。県主導での共同メッセージの取りまとめはありがたく、現在、町独自のメッセージ発出を検討中。

【海士町】

家庭や地域の理解を得るには、大人同士の共感や、質の高い授業実践、自己研鑽等が肝要。今後も家庭や地域の理解を得られる働き方改革を進める。

【西ノ島町】

県の働き方改革挑戦校の指定を受けたり、町単独でのサポート人材配置を行ったりしている。今回の共同メッセージは各家庭・地域に発信していきたい。

【知夫村】

村内には1小中学校しかなく、校舎には教育委員会も同居し、細やかに連携している。この強みを生かし、働き方改革を推進していく。

【隠岐の島町】

町単独でのサポート人材の配置を行っている。今後も、学校が工夫して取り組むことを町教育委員会として支援していく。

【島根県】

県立学校の働き方改革を進めることはもちろん、本日の共同メッセージを教員募集広報で積極的に活用し、教員志望者に対して、家庭・地域も巻き込んで働き方改革を進める本県の姿をPRしていく。

